

検査設備の最新鋭化による製品の高度保証化

当社は、製品検査での更なる精度向上を図るため、最新鋭の検査設備の導入を推進しています。

棒鋼製品では、欠陥の検出精度の高いフェーズドアレイ式超音波探傷設備を6台導入しています。また、鋼管では自動検査が可能な製品寸法の拡大を図り、効率的かつ有効性の高い検査設備に改造しました。信頼性の高い製品を顧客へ提供するため、高度な品質保証体制の確立を目指し取り組みを継続しています。



棒鋼用フェーズドアレイ式超音波探傷設備

ISO9001の2000年版から2008年版への移行

ISO9001:2000年版の曖昧さの除去とISO14001との両立性向上を目的とし、2008年版が発行されました。当社は、既に「特殊鋼の棒線および継目無鋼管の製造」、「特殊鋼素形材の製造」、「金属粉末製品の製造」のISO9001の認証を取得しており、これら認証対象製品において2008年版への移行審査を受審し認証継続を行いました。

今後も、「高信頼性鋼の山陽」のブランド力の強化を図り、顧客の満足と信頼をより強固なものとするを基本方針とし、さらにレベルの高い品質マネジメントシステムの構築を目指し、取り組みを続けていきます。



Column

日本鉄鋼協会より栄誉ある受賞

2010年3月に、社団法人日本鉄鋼協会から児玉和哉専務取締役(当時)が「技術功績賞(渡辺三郎賞)」を受賞しました。特殊鋼の品質と信頼性を飛躍的に高める製鋼技術の開発・確立、製造が困難とされる品種の量産技術の確立、特殊鋼製造プロセスにおける環境負荷低減など、わが国の特殊鋼鋼材の品質水準を高め、特殊鋼製造プロセスの進歩と発展に貢献する多大な功績をあげたことが称えられました。

また、西濱渉取締役が「技術貢献賞(渡辺義介記念賞)」を受賞しました。

特殊鋼継目無鋼管の品質・生産性の向上などに尽力し、コールドピルガー圧延において世界最高水準の品質と生産性を実現する操業技術を確立するなど、継目無鋼管製造技術の進歩と発展に寄与する功績をあげたことが評価されました。

日本金属学会より栄誉ある受賞

2010年3月に、社団法人日本金属学会から柳谷彰彦取締役が「技術賞」を受賞しました。

高機能金属材料の開発・量産化技術の確立に従事し、数多くの高機能材料の実用化を果たすとともに、研究活動や関連特許において多数の実績を築きました。こうした機能材料の分野における技術の発展への貢献が評価されました。